

鞍馬寺について

1、概要

昔、私の作ったホームページがあるので、まずそれをご覧いただきたい。

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/tabi/kura.html>

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/tabi/kurama2.html>

魔界・鞍馬山は、不気味な中にもなんとなく懐かしさがある。奥の院から貴船 神社へ・・・極相林を抜けるその参道は、荘厳そのもの。身が引き締まる。それが鞍馬寺である。

阿吽の虎は本来由岐神社にあるのだが、本殿の金堂でもにらみを利かしている。





pixta.jp - 6495131

虎は鞍馬寺と深い関わり合いがある。金星から降臨したサナートクマラの霊波を受けて、鑑鵜（がんでい）上人は鞍馬山上に導かれてきたのは、宝亀元年正月4日午前4時、つまり寅の年、寅の月、寅の日、寅の刻であった。そして、燦然と輝く太陽の中に毘沙門天を拝したのであった。サナート・クマラが毘沙門天の姿をとって降臨されたのだが、そんなところから、虎は、鞍馬寺に大変関係の深い神獣となっている。金堂に安置された毘沙門天、吉祥天、ゼンニシ童子は国宝だが、「阿吽の虎」がこれらをおまもりしている。

本堂の金堂前の翔雲台（しょううんだい）に毘沙門天が降臨されたとされている。



毘沙門天すなわち多聞天は、古代インドの神話の中では、北方守護と財宝守護という二つの重要な役割を担った神で、別名クベーラと呼ばれる軍神にして福神であった。

インドでは、腰衣とターバンを巻いた貴人姿の神だったが、中央アジアを經由して中国にいたる間に、今日見られるような甲冑をまとった神将の姿になった。

中国の古い仏書には、敦煌（敦煌）の安西城が敵から攻撃されたとき、毘沙門天が配下のネズミに鎧や馬具の糸を噛み切らせて、敵の大軍を追い払ったので、これより以降、毘沙門天像を楼門上に安置するようになったという話が記されている。

日本の場合はむしろ、鞍馬寺や東寺の毘沙門天は、平安京の守護神としての役割を担っていたが、一方では後世になるほど、財宝をもたらす現世利益の福神として庶民の信仰を集めた。

鞍馬寺には不動堂にも毘沙門天像が安置されている。また、もと本殿の前に立っていた重文の「銅灯籠」にも火袋の部分に毘沙門天のほかに吉祥天とゼンニシ童子の姿が彫られている。吉祥天は毘沙門天の妃（きさき）、ゼンニシ童子はその子供である。毘沙門天の家族像が刻まれたこの「銅灯籠」は、鎌倉時代に寄進されたもので、現世利益を願う20余人の施主の名前もぎっしり刻まれている。女性の名も見られる。

その毘沙門天は、千手観世音菩薩、護法魔王尊とともに三位一体の「尊天」として本殿金堂のご本尊として祀られているのである。

鞍馬寺には多くの不思議があるが、阿吽の虎と毘沙門天があることにまず注目してもらいたい。

2、満月祭について

ヒマラヤ山中でおこなわれている満月祭と同じ祭りが鞍馬で行われているのは、全く不思議だ。

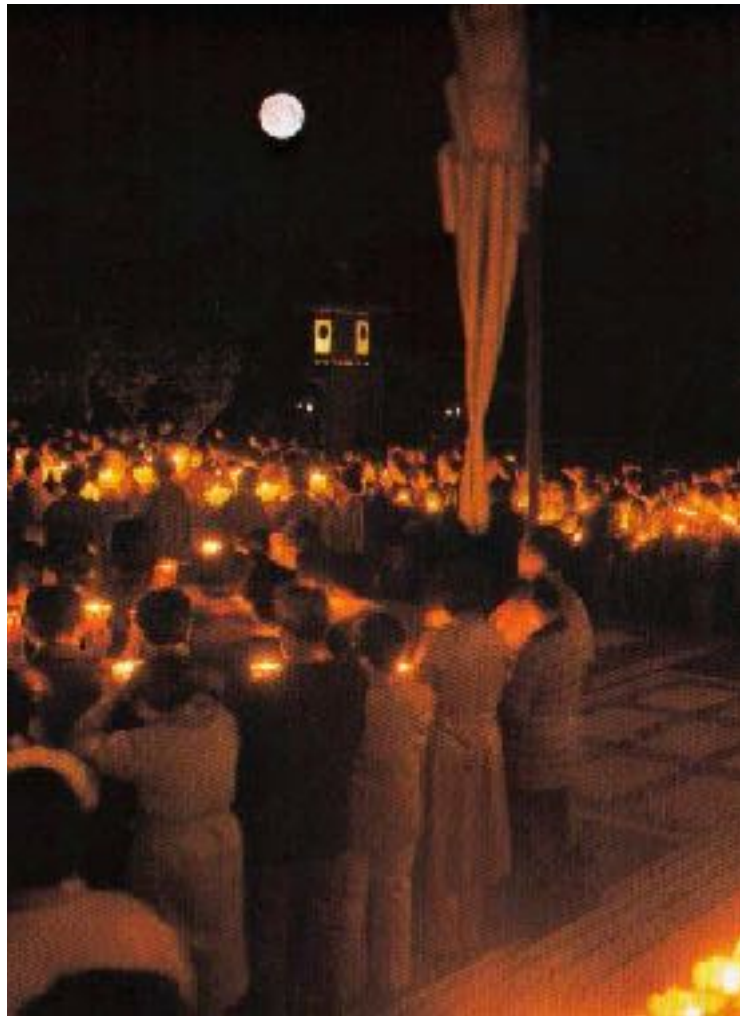
<https://www.youtube.com/watch?v=ZIMa-cBbGRQ>

鞍馬寺の公式ホームページによると次のように説明されている。すなわち

『五月満月祭 <5月の満月の夜>

新緑の五月の満月の夜は、全てのものの目覚めのために天界から強いエネルギーが降り注ぐと言われ、満月に清水を供える五月満月の秘儀が鞍馬山で執り行われていました。遙かヒマラヤでもこの夜に釈尊の徳を讃えてウエサクの祭りが敬虔に営まれている事がわかり、戦後、五月満月の秘儀を「ウエサクさい」とよんで広く公開し、全ての目覚めと平安を祈ります。』・・・と。

鞍馬寺の高い人気の秘密は、サナート・クラマ縁起や牛若丸伝説に負うところが大きいですが、くわえて「鞍馬の火祭り」、「鞍馬の竹切り会（え）」、「満月祭」などのユニークな祭りのおかげである。なかでも満月祭は珍しい。



5月の満月が中天にかかる頃、ろうそくを手にした大勢の参拝者が黙々と本堂に集まって、霊水と護摩供（ごまく）を受け、月が輝きを失う未明までみんなで祈りを捧げる誠にエキゾチックな祭りである。

この満月祭は、南方仏教の祭りである「ウエサク祭」の影響が強い。「ウエサク祭」とは、釈迦の降誕（ごうたん）、成道（じょうどう・悟りを開いた日）、入滅の日がすべて、ヴェーサーカー月（インド歴第二月、太陽暦では4月から5月に当たる）の満月の夜であったという南方仏教の伝承にもとづいて、スリランカやタイ、ビルマなど小乗仏教国で国を挙げて祝われるお祭りである。チベットのヒマラヤ山中でも、同じ祭りが行われている。

3、サナート・クマラ

金堂はいうなれば本堂で毘沙門天が祭られているのだが、鞍馬には奥の院魔王殿が在り、あの[サナト・クマラ](#)が祭られている。毘沙門天はサナート・クマラの別の姿だとも言われているので、奥の院魔王殿の方が宇宙性があるのかもしれない。

サナート・クマラは、今から650万年前、はるか宇宙のかなたの金星から、白熱の炎に包まれ天地を揺るがす轟音とともに、地球に降臨された。

その聖なる地点が、鞍馬山奥の院魔王殿のあるところであった。サナート・クマラは、世界性を包含した宇宙神であり、様々な姿をとる。毘沙門天もそうだが、白髪の子形をとるときもあれば、愛らしい童形で現出することもある。極めて日本的な姿としては「天狗」もそうだ。義経が牛若丸といった頃、鞍馬寺でこの天狗から変幻自在の兵法を教え込まれたが、この天狗も、実は、サナート・クマラが姿を変えて出現たのであった。

夜ともなれば、鞍馬には駿河富士山の太郎坊、四国白峰の相模坊、伯耆大山の伯耆坊、彦山の豊前坊等、錚々たる天狗たちが集まってきたが、それを束ねるのが**鞍馬の魔王の僧正坊**であった。鞍馬といえば、天狗、それはとりもなおさずサナート・クマラなのである。



光明心殿の魔王尊像

さて、サナート・クマラの姿を描いた人がいるというのだが。。。。。こうした伝承への興味は尽きない。だが、鞍馬寺の初代貫首・信楽香雲の著した「鞍馬山歳時記」によれば、さらに驚くべきことがある。サナートクマラは、もともと地下の魔界の支配者であるが、その魔界への通路は、地球上では北欧、ヒマラヤ、南米そして日本の4カ所しかなく、日本のそれがこの鞍馬というのである。そして、サナート・クマラの究極の使命は、遠い将来、地球に破局が訪れたとき、人類を誘導して水星に移住させることにある。

私の解釈としては、その魔界への通路とはいわゆるタイムトンネルのようなものであり、サナート・クマラはその4次元の世界を使つて我々人類を水星に誘導するのではなかろうか。

鞍馬寺は奥の院魔王殿、その付近はいつも不思議な霊気が漂っている。昼なお暗い杉木立の中、むき出しに累々とした奇岩は、2億5千年前に海底から隆起した水成岩である。時空を超えて地球にやってきたサナート・クマラの舞台にふさわしい。

4、鞍馬寺の境内

鞍馬寺公式ホームページ：<http://www.kuramadera.or.jp/> によれば、仁王門、由岐神社、本殿金堂、霊宝殿、木の根道、義経堂、魔王殿の順番に歩いて、貴船まで行くことができる。

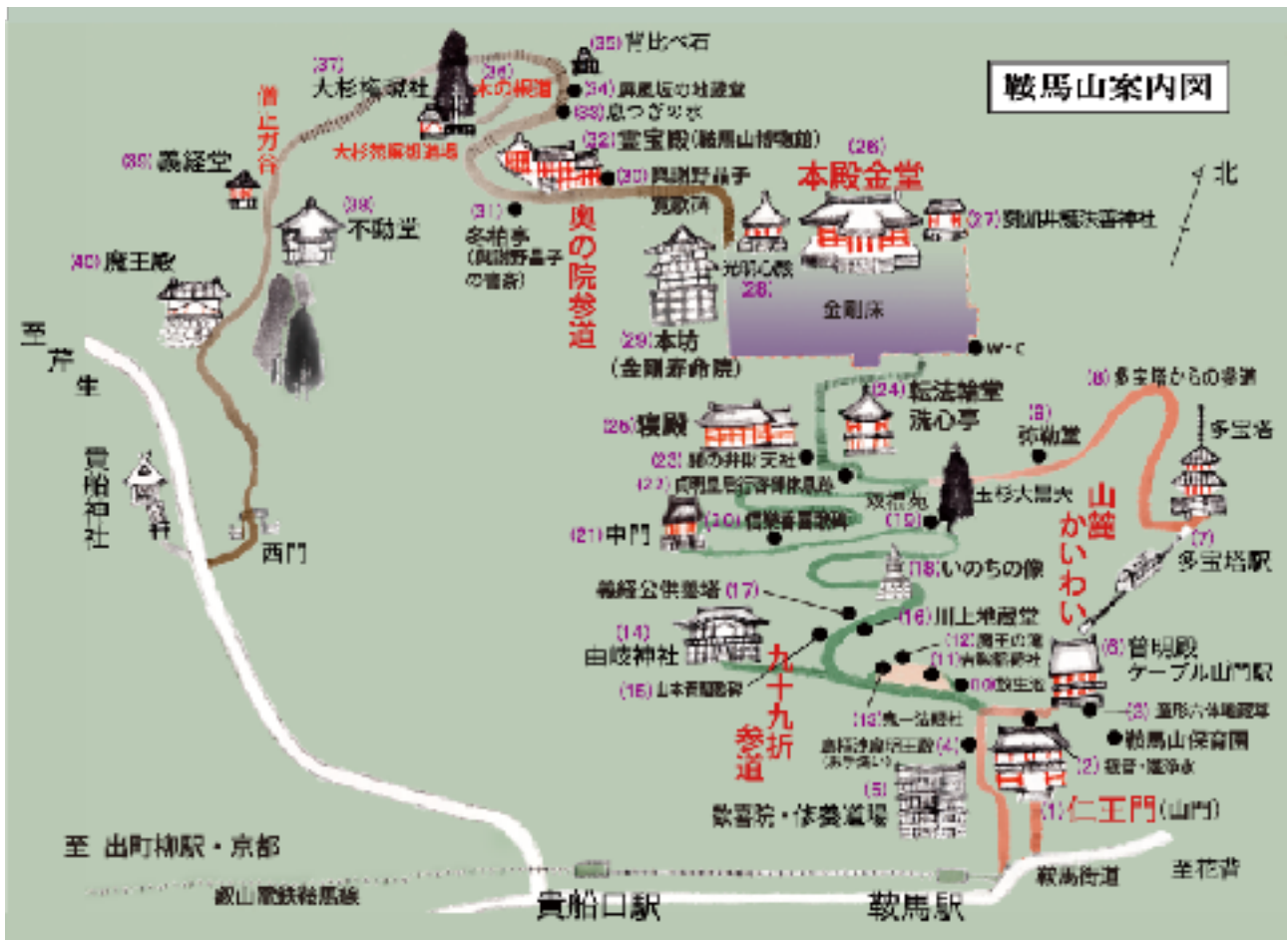
魔王殿は、古代、金星から降臨してきた魔王サナート・クマラを祀っていて、鞍馬寺の名前の由来になっているので、鞍馬寺を深く知るためには、貴船まで歩いていくのがいい。鞍馬寺は、まことに不思議な寺であるが、貴船もまた不思議なところである。

鞍馬寺といえば、牛若丸の修行したところとして有名だが、その先生は鬼一法眼（きいちほうげん、おにいちほうげん）という説がある。鬼一法眼は、京の一条堀川に住んだ陰陽師。『六韜』という兵法の大家でもあり、文武の達人とされる。また剣術においても、京八流の祖として、また剣術の神として崇められている。鞍馬寺境内には鬼一法眼を祀る鬼一法眼社がある。

また、鞍馬天狗という能があって、山伏が先生になっている。その山伏は鞍馬山の首領である天狗であるとその身分を明かし、平家討滅の兵法伝授を約して雲を踏んで飛び去る。
能の鞍馬天狗：<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/kuraten.html>

なお、義経に関連するものとしては、霊宝殿の2階にさまざまな展示物が展示されているし、また木の根道をゆき、魔王殿の手前に義経堂がある。





▼史跡名をクリックして下さい。説明文と写真にジャンプします。

- [\(1\)仁王門 \(山門\)](#)
[\(2\)観音・還浄水](#)
[\(3\)童形六体地蔵尊](#)
[\(4\)鳥樞沙摩明王殿 \(山麓お手洗い\)](#)
[\(5\)歓喜院・修養道場](#)
[\(6\)ケーブル普明殿 \(山門駅\)](#)
[\(7\)ケーブル多宝塔駅 \(山上駅\)](#)
[\(8\)多宝塔駅からの参道](#)
[\(9\)弥勒堂](#)
[\(10\)放生池](#)
[\(11\)吉鞍稻荷社](#)
[\(12\)魔王の滝](#)
[\(13\)鬼一法眼社](#)
[\(14\)由岐神社](#)
[\(15\)山本青瓢歌碑](#)
[\(16\)川上地蔵堂](#)
[\(17\)義経公供養塔](#)
[\(18\)愛と光と力の像「いのち」](#)
[\(19\)双福苑](#)
[\(20\)信楽香雲歌碑](#)
[\(21\)中門](#)
[\(22\)貞明皇后行啓 御休息跡](#)
[\(23\)巽の弁財天社](#)
[\(24\)転法輪堂・洗心亭](#)
[\(25\)寝殿](#)
[\(26\)本殿金堂・金剛床](#)
[\(27\)閼伽井護法善神社](#)
[\(28\)光明心殿](#)
[\(29\)本坊 \(金剛寿命院\)](#)
[\(30\)與謝野晶子・寛歌碑](#)
[\(31\)冬柏亭](#)
[\(32\)靈宝殿 \(鞍馬山博物館\)](#)
[\(33\)息つぎの水](#)
[\(34\)屏風坂の地蔵堂](#)
[\(35\)背比べ石](#)
[\(36\)木の根道](#)
[\(37\)大杉権現社](#)
[\(38\)不動堂](#)
[\(39\)義経堂](#)
[\(40\)魔王殿](#)

鞍馬から貴船に抜ける：https://www.youtube.com/watch?v=fJrT_mbp_zU

5、貴船



魔王殿から少し降りていけばすぐに貴船に着く。貴船は京都の奥座敷として有名。涼しげな川床で美味しい食事が楽しめる。

しかし、貴船というところも不思議なところで、現在は京都の水をつかさどる神が鎮座しているが、古代は呪詛神が鎮座し、[丑の刻参り](#)の行われたところである。

昔作った私のホームページがあるので、まずそれを見てもらいたい。

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/kibunejin2.html>

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/kibunejin.html>

聖と邪の一体化、・・・それが貴船だ！ 貴船は神域であると同時に魔界でもあるのである。

能に金輪という演目がある。



あらすじ

ある夜、貴船（きぶね）神社 [京都市左京区鞍馬貴船町] の社人に夢の告げがありました。丑の刻（うしのとき・うしのこく） [午前2時頃] 参りをする都の女に神託を伝えよ、というものです。真夜中、神社に女が現れました。女は、自分を捨てて後妻を娶った夫に、報いを受けさせるため、遠い道を幾晩も、貴船神社に詣でていたのです。社人は女に、三つの脚に火を灯した鉄輪 [五徳] を頭に載せるなどして、怒る心を持つなら、望みどおり鬼になる、と神託を告げ、女とやり取りするうちに怖くなり、逃げ出します。女が神託通

りにしようと言うやいなや、様子は変わり髪が逆立ち、雷鳴が轟きます。雷雨のなか、女は恨みを思い知らせてやると言い捨て、駆け去りました。

女の元夫、下京辺りに住む男が連夜の悪夢に悩み、有名な陰陽師、安倍晴明を訪ねます。晴明は、先妻の呪いにより、夫婦の命は今夜で尽きると見立てます。男の懇願に応じて、晴明は彼の家には祈禱棚を設け、夫婦の形代（かたしろ）〔身代わりの人形〕を載せ、呪いを肩代わりさせるため、祈禱を始めます。そこへ脚に火を灯した鉄輪を戴き、鬼となった先妻が現れます。鬼女は捨てられた恨みを述べ、後妻の形代の髪を打ち据え、男の形代に襲いかかりますが、神力に退けられ、時機を待つと言って姿を消します。

みどころ

女の恨み、嫉妬心の恐ろしさを、禍々しい鬼の姿で表現する能です。丑の刻参りでかけられた恨みの呪いを祈禱ではね返す、呪術の力を示す話とも言えます。しかし嫉妬の鬼の前では、稀代の陰陽師、安倍晴明も影が薄いようです。鬼女は撃退されますが、一時力を失っただけのようで、いつ機会をうかがい現れるか知れません。力強い陰陽師の存在感もかすむほどの、捨てられた女の凄まじい恨み。それを緩急鋭い謡や囃子と、なまなましい型で伝えます。

貴船神社は、京都市中心部から北へ外れた鞍馬の山にあります。町中に住んでいただろう女が、通うには大変な距離で、それだけでも異常です。女の恨みのほどがわかります。

貴船神社の荒神は「丑の刻参り」の呪詛神として有名であり、貴船山に丑の年の丑の月の丑の日の丑の刻に降臨した神とも伝えられる。そういう側面を持った貴船神社は、『栄花物語』や『お伽草子』、能「鉄輪」、宇治の橋姫の伝承などで取り上げられている。